

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：第3次産業活動指数(8月)
～良好な内容～

発表日：10月21日(金)
(No. J-141)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 齋藤俊輔
TEL：03-5221-4547

(単位:%)

		第3次産業活動指数										
		電気・ガス・熱供給・水道業		情報通信業	運輸業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療、福祉	サービス業	
		前期比	前年比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比
04	1-3月	0.0	2.4	1.8	▲3.0	▲0.5	▲0.1	1.0	▲0.2	▲0.6	1.0	▲0.2
	4-6月	1.6	2.5	1.6	3.3	0.7	0.5	2.4	1.6	0.5	0.7	3.0
	7-9月	▲0.2	2.5	0.2	▲3.4	0.5	0.1	▲1.9	0.1	▲0.8	0.9	0.8
	10-12月	0.6	2.0	▲2.4	3.7	▲0.1	▲0.1	0.6	0.6	▲0.1	0.2	1.5
05	1-3月	1.4	2.2	4.2	▲2.1	0.2	1.6	1.8	▲0.3	3.0	1.0	2.3
	4-6月	0.0	1.8	▲0.9	1.3	1.3	0.0	▲1.0	1.1	▲0.7	▲0.5	▲0.1
04	1月	2.0	2.5	2.5	▲4.1	0.8	3.4	3.0	0.2	▲2.5	2.2	2.5
	2月	▲3.1	2.7	▲1.9	▲0.6	▲3.0	▲3.6	▲3.3	▲2.8	0.2	▲3.6	▲4.0
	3月	1.6	2.1	1.5	0.2	2.6	▲0.6	4.6	3.1	1.0	4.2	0.6
	4月	2.0	3.4	▲0.1	2.1	0.2	3.2	1.7	0.4	▲0.2	▲0.6	4.4
	5月	▲1.0	1.0	1.6	▲1.0	▲0.5	▲2.0	▲1.4	0.2	0.5	0.1	▲0.7
	6月	0.6	3.0	0.8	5.7	0.6	1.1	▲0.8	0.3	▲0.9	▲0.6	0.1
	7月	▲0.3	3.4	0.1	▲9.3	1.3	0.9	▲1.7	▲0.2	1.2	0.6	0.4
	8月	0.2	2.6	▲2.0	4.9	▲1.6	▲1.0	1.1	0.1	▲3.1	1.0	0.2
	9月	0.0	1.6	1.3	▲0.4	0.2	▲0.5	▲1.1	▲0.1	1.8	▲0.3	1.6
	10月	0.3	0.5	▲1.4	2.4	0.4	1.2	0.1	▲0.2	▲0.7	▲0.4	▲1.1
	11月	0.3	3.0	▲1.6	▲1.4	0.3	▲0.7	0.8	1.0	▲2.1	0.9	1.9
	12月	0.1	2.4	▲0.6	2.4	▲0.8	0.0	▲1.0	0.3	5.7	▲0.4	0.7
05	1月	2.4	3.1	3.6	▲3.1	0.6	4.6	2.9	▲0.3	0.1	1.9	1.9
	2月	▲1.2	1.5	2.3	1.1	▲1.1	▲2.7	▲1.0	▲0.3	▲0.8	▲2.0	▲0.7
	3月	▲0.9	2.0	▲0.2	▲2.6	2.3	▲2.9	▲0.2	▲1.2	1.3	1.5	▲0.7
	4月	1.7	1.7	▲0.6	1.8	0.5	4.3	▲0.2	1.4	▲0.7	▲0.5	1.2
	5月	▲1.5	1.8	▲2.8	▲1.3	▲1.4	▲2.2	▲0.6	1.0	▲0.7	▲0.3	▲1.8
	6月	0.9	1.9	2.7	5.5	1.9	0.8	0.1	▲0.2	▲0.4	▲0.5	2.0
	7月	▲0.7	1.2	▲5.3	▲4.7	▲0.8	▲0.6	0.3	▲0.5	▲0.6	0.3	▲0.4
	8月	1.7	3.3	5.4	2.2	0.5	1.7	3.7	1.8	▲0.5	1.2	0.9

(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」

○ 第3次産業活動指数は前月比+1.7%と大幅な伸び

8月の第3次産業活動指数は前月比+1.7%と市場予想(コンセンサス+0.9%、レンジ+0.2~+1.6%)を上振れる良好な結果となった。内訳をみると、上昇した主な業種は、情報通信業(同+2.2%)、電気・ガス・熱供給・水道業(同+5.4%)、卸・小売業(同+1.7%)、サービス業(同+0.9%)等である。前月に落ち込んでいた第3次産業活動指数の中核的な存在である卸・小売業、サービス業、情報通信業などが揃って上昇に転じたことは良い材料といえよう。また、株式市場の活況を背景に証券業も同+24.0%(寄与度+0.2%ポイント)と押し上げに寄与している。今月は小売などの業種が底堅い個人消費を背景として軒並み好調であり、趨勢としての緩やかな改善傾向を確認できる内容であった。

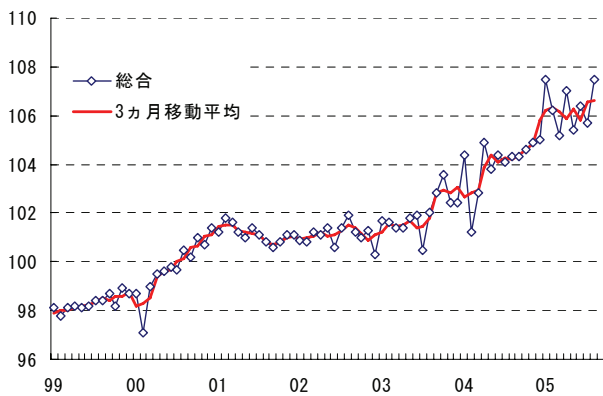
○ 全産業活動指数の緩やかな上昇傾向も続く見込み

同時に公表された8月の全産業活動指数も前月比+1.1%(コンセンサス+0.8%、レンジ0.0%~+1.5%)と市場予想を上回った。内訳をみると、第3次産業活動指数(寄与度+1.1%ポイント)に加え、鉱工業生産指数(同+0.2%ポイント)も上昇に寄与している。予測指数では、9月は前月比+3.0%と大幅増加が見込まれていることや、IT部門の在庫調整が終息したことなども勘案すれば、10-12月期の鉱工業生産指数はIT関連財の伸びによる押し上げが期待できる。第3次産業活動指数も前述の通り、緩やかな改善傾向が続いていることから、全産業活動指数の緩やかな上昇傾向は持続するだろう。

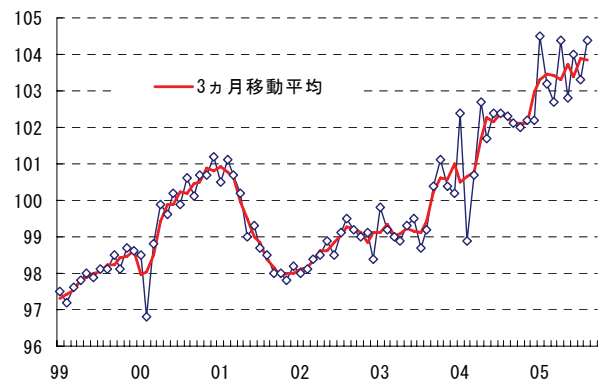
○ 7-9月期QEの伸び鈍化を示唆するも、年前半の伸びからの一時的な反動

全産業活動指数を7、8月平均の対4-6月期比で見ると+0.1%となっている。今月の上昇により7月の低調なスタート(前月比▲0.8%)からは盛り返したものの、プラス幅は小幅なものにとどまっている。全産業活動指数は供給側からみたGDPとも言われていることから、7-9月期QEが1-3月期(前期比年率+5.8%)、4-6月期(同+3.3%)の伸びから大きく鈍化する可能性を示唆している。ただ、設備投資計画の強さや雇用・所得環境の改善傾向を背景とした底堅い個人消費などを勘案すれば、7-9月期の鈍化は年前半の高い伸びの一時的な反動と評価される可能性が高いだろう。

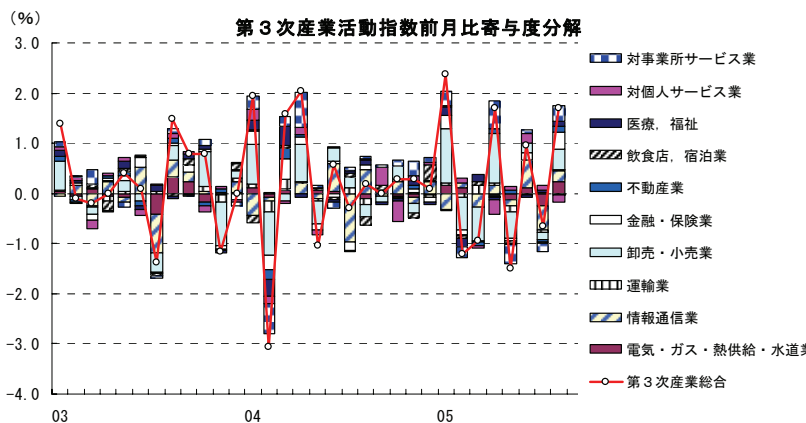
第3次産業活動指数(季調値)



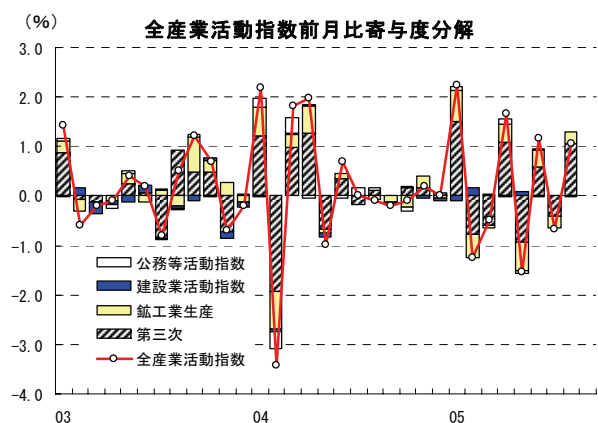
全産業活動指数(季調値)



第3次産業活動指数前月比寄与度分解



全産業活動指数前月比寄与度分解



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。